

令和三年度別府市小・中学生「人権作文」入賞作品
別府市教育長賞

人が人としていられるために

別府市立境川小学校六年 庄 香穂

私はみなさんに聞きたいことがあります。

「人が人としていられるためには、何が必要だと考えますか？」

私は、「お互いがお互いを思いやること」だと思います。学校やテレビ、町の中でも「思いやりが大切」とよく見聞きすることがあります。「思いやり」と聞くと、私は祖父のことを思い出します。祖父は、いつも周りに気を配り、やさしくしています。

例えば、誰かの話を聞く時には、相手の話を最後まで聞いて、相手の意見を大事にしようとしています。その祖父は今、病気のため体に障がいがあります。歩くのもおそいし、書く字も読みにくいですが、何事も自分でやってみようと頑張っています。でも、どうしても自分では出来ないこともたくさんあります。そんな時には、周りの人がいつも助けてくれます。それはきつと、祖父が今まで周りの人に思いやりの気持ちを持って接してきたからだと思います。思いやりは、その場だけのものではなく、つながっていくものなんだということを私は祖父から学びました。そして、私も祖父を見習って、思いやりの気持ちを持って周りの人に接することができるようになりたいと思うようになりました。

その一步をふみ出すために私には心がけていることがあります。それは私の通っている学校の児童会の目標である「あったかニコニコ境川」です。この目標は、一人ひとりが温かい心で友だちに関わることで、学校中に笑顔を広げている学校というものです。自分から積極的にあいさつをしたり、ふわふわ言葉を使ったり、誰かが困っている時には「大丈夫？」と声をかけて手を差しのべたりと、できることはたくさんあります。六年生になったばかりの私は、人よりも自分を優先してしまい、周りの人のことをあまり考えることができていませんでした。でも、

「あつたかニコニコ境川」を意識するようになってからは、少しずつ周りの人のことを考えようとすることができるようになってきました。

そんな中で新しい悩みも生まれました。「行動するって難しい」ということです。「あの人困っているんじゃないかな?」と気づいていても、「私が助けることが相手にとって本当に助けになるかな? 迷惑になるんじゃないかな?」と迷い、なかなか行動できないことがあります。そうしていると、他の誰かがその人を助けていて、その様子を見ると「やっぱり勇気を出して行動にうつせばよかったな。」と思うこともあります。そして、思いやりには、勇気とコミュニケーションが大切だと思うようになりました。

世界には、学校に行くこともできず、爆弾におびえる日々を過ごしていたり、十分な食事をとることや布団で安心して眠ることができなかつたりする子どもたちがたくさんいると聞きます。私は、学校にも通えないし、家に帰れば美味しいご飯を食べ、布団でゆっくり眠ることもできません。今の生活を幸せだなど思うと同時に、平和で争いごとのない、「人が人としていられる」世の中が当たり前ではないということも知りました。

私には、世界を変えることはできないけれど、大人も子どもも一人ひとり、周りの人のことを思いやり、行動することで、みんなの心が少しずつ温まり、優しい心でいっぱいになるのではないかと思います。それが世界中に広がれば、きつと「人が人としていられる」世界が実現すると思います。私も自分の周りから思いやりを広げていけるように、これからも頑張ります。